

AVニュース エクスプレス

平成13年度子どもゆめ基金でCD-ROM「おりがみでゆめをひろげよう！」を開発
エル・ネット「オープンカレッジ」メールマガジン発行
「Panasonic World of Discovery 探検キッズ」開設
日本シミュレーション&ゲーミング学会「2002年度春季全国大会」開催
「E-Learnig 全国縦断セミナー」開催

協会情報

■平成13年度子どもゆめ基金
でCD-ROM「おりがみでゆめ
をひろげよう！」を開発

日本視聴覚教育協会では、子どもの健全な育成を推進する活動に交付される平成13年度の「子どもゆめ基金」（独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター実施）の助成を受け、CD-ROM「おりがみでゆめをひろげよう！」を（株）創育の制作協力により開発した。

この教材は、64作品の作り



方と、それらを使った遊び方が紹介されており、パソコンの動画により、折り方を直感的に理解させるとともに、折り紙の生み出す魅力に興味を抱き、子どもたちが作品を作る体験活動を通して、創作意欲を起こさせることを意図して作られたもの。「折る」という一連の動きを、子どもの目の視点で、コンピュータグラフィックス技術により、わかりやすく再現している。

視聴覚センター・ライブラリーや児童センター、児童館などに3,000枚が配布される。希望者には、当協会のホームページより先着570名に無料配布する。
<http://www.javea.or.jp>

AV情報

■エル・ネット「オープンカレッジ」メールマガジン発行

文部科学省が実施するエル・ネットで「オープンカレッジ」の放送を行っている高等教育情報化推進協議会では、同放送に関する番組予定や、文部科学省からのエル・ネットに関する情報をメールマガジンで、毎週配信する。

このメールマガジンは、エル・ネット受信局等関係者、送信を希望された方々に配信している。配信を希望される方は、アドレス、機関名、氏名を明記の上「magazine@opencol.gr.jp」までお申し込みください。詳細については「オープンカレッジ」ホームページを参照いただきたい。
<http://www.opencol.gr.jp>

■「Panasonic World of Discovery 探検キッズ」開設

松下電器産業（株）は、小・中学校で始まった総合的学習の支援を目的とした標記サイトを

ブックレビュー



「月岡先生の楽しいアニメ教室 全6巻」 (1.アニメで遊ぼう 2.原画はこうして描こう 3.人の動きを観察しよう 4.イヌやネコに教えてもらおう 5.パソコンで発表しよう 6.CMアニメはこうして作る)

月岡貞夫著 偕成社 2002年3月刊
30cm×24cm 各32頁
各2,800円(税別)

最近、パソコンで簡単にアニメーション映画を作るソフトが発売されるようになった。だが、ソフトが進歩しても、絵を描くことは難しい。適当なキャラクターは模写できたとしても、それをどのように動かすかが、難問だ。試みにノートの端に1匹の犬を描き、これを走らせてご覧。脚の運びを次のページ、さらに、その次のページにどう描けばよいか、たちまち行き詰まる。

月岡貞夫は東映動画でテレビの「狼少年ケン」など数々の名作を制作してきたアニメ作家である。月岡の手にかかるると僅か6枚の画で犬が軽やかに走り出す。その技術を基にしたのが本書だ。1冊目の「アニメで遊ぼう」ではソーモトロープでパソコンがない子どもも動画の世界

に惹き込む。「原画はこうして描こう」では、手足の動きをどのようにずらしていけば綺麗な動画ができるか、その秘密を惜しげもなく公開している。児童向けの本だが「ビデオで撮影した野球選手の動きを一駒ずつ分解して研究」など、教師にとっても「ほほう」という指導技法が紹介されている。「人の動き」「イヌやネコに教えてもらおう」などすべて月岡が描いた原画がびっしり詰まっているので、これをそのままスキャナーに取り込めば動画ができそう。しかし、数々の現場で弟子を鍛えてきた月岡は、そう甘くない。「この絵と次の絵の間に自分で絵を描いて嵌め込んでごらん」とちゃんと自主的な学習の余地を残す。結びにCMの制作技法もある用意周到な本だ。(宇佐美昇三)

開設した。総合的学習では、重視すべきテーマとして「国際理解」「情報」「環境」「健康・福祉」「地域社会」などが想定され、学習のプロセスは「興味・関心」から出発し、「調査・取材・体験」を行い、「まとめ・発表」へと進めていく。本サイトはこのプロセスに基づき、「たんけんに出発！作戦本部」「ひらめくアイデア！大発見ワールド」「？がいっぱい ふしぎの図書館」「電気のナゾを追い！エレキはかせの研究室」の4つのコーナーで構成され、子どもたちにアニメーションやさまざまな仕掛けを楽しんでもらいながら、総合的学習に取り組める工夫をしている。

<特徴>

①インターネットに最初に関心を抱く世代に、ターゲットを絞ったサイトの開設

②子どもの目線に立った、エンターテインメント性の高いコンテンツの提供

③総合的学習のプロセスに沿ったサイト構成

<問い合わせ先>

松下電器産業(株)

電話06-6908-0531 <http://www.discovery.panasonic.co.jp/>

学会情報

■日本シミュレーション&ゲーミング学会「2002年度春季全国大会」開催

日本シミュレーション&ゲーミング学会(JASAG)は、標記大会を下記内要領により開催する。

<テーマ>

「シミュレーション&ゲーミング：次世代の人材育成を目指して」

<開催日>

6月29日(土)：研究発表を

中心に開催/30日(日)：シンポジウムならびにセミナーを開催(一般公開日)

<会場>

幕張セミナーハウス(千葉県習志野市茜浜2-3-2)

<研究発表課題>

「先進先端を担う研究者実践者の視点」：主に若手の研究者による斬新な研究アイデア。完成した研究である必要はなく、研究計画あるいは研究途上の発表等。発表形式は、通常の大会の一般セッションに準じる形式で、口頭発表と質疑応答形式。

<教育研究シンポジウム>

テーマ「学校を変えるゲーミング：教育から学習へ」：ゲーミングシミュレーションの教育利用における可能性や問題点などについて、著名な演者から、話題提供を受け、参加者を交えて討議を行う。

ブックレビュー



「学校で拓くメディアリテラシー」

乾昭治監修 田代光一・宇野秀夫・村野井均・大野木裕明編集 福井県教育工学研究会著 日本文教出版 2002年3月刊 B5判 144頁 1,800円(税別)

本書におけるメディア・リテラシーの概念は広く、一般的な使われ方とはやや異なっているように思われる。たとえば、用語の中にリサーチ・リテラシーという語がある。社会調査を読む力ということのようだ。確かに読解能力、活用能力という一般用語としてリテラシーという語が使われることからすればそれでよいとも言える。しかし、メディア・リテラシーは、もう少し限定的に使われる語ではなかったかという疑問が私にはある。もとよりそのことで本書の意義が薄れるものではないし、研究会内での定義が明らかであれば別段問題はないであろう。

むしろ気になったのは、「映像理解を支えるリテラシー」の調査データである。「児童はテレビをどれくらい理解している

か」という項の数値の妥当性についてである。たとえば、ドラえもん番組を見せて、児童の空間移動に関する理解力を問うた結果、1年生が23.5%、3年生が7.7%、5年生は58.1%の理解率であったという。もし誤植でないとするれば、1年生より3年生の理解率が低いという結果をどう解釈すべきなのか。各学年30人前後の標本数で、一般化できるのかどうかの吟味はなされたのだろうか。この結果は、この研究会が提唱するリサーチ・リテラシーの観点からすると、どのように評価されるべきものなのか。その辺りが、書き込まれてもよかったのではないかな。

メディア・リテラシーの教育の重要性が認識されつつある現在、意義のある本だと思っているので一言しておきたい。(平沢 茂)

<模擬学習セミナー>

○テーマ「ゲーミングで世界を知る」：国際関係、環境、エネルギーなど、多くの社会問題の本質を理解させる「仮想世界ゲーム」に関する経験学習セミナー。

○ファシリテーター：広瀬幸雄氏 (名古屋大学)

<問い合わせ先>

JASAG2002春季大会事務局/茨城県竜ヶ崎市平畑 流通経済大学経済学部市川研究室/電話 0297-60-1918 <http://ai.rku.ac.jp/jasag/2002spring/>

研究会情報

■「E-Learning全国縦断セミナー」開催

(株)現代教育新聞社の主催により、情報科担当教師を対象とした標記セミナーが熊本市で開催される。当日は藤井一郎氏

(広島県立安芸高校教諭)が「学校におけるネットワーク管理」についての講演を行うほか、シスコ・ネットワークングアカデミープログラムの実践事例の紹介などが行われる。

同セミナーは3月にも大阪で行われており、今後、新潟・山形・静岡と情報技術者育成を目標として全国展開していく予定。

<日時>

平成14年6月7日(金) 午後2:00~4:30

<会場>熊本市国際交流会館

<内容>

- ①「学校におけるネットワーク管理」について
- ② E-Learningの開発・研究を推進するNPO法人「インターネット・ラーニング・アカデミー(ILA)」について
- ③シスコ・ネットワークングアカデミーのカリキュラム紹介と大

学の授業での実践事例について
<参加申込み・問い合わせ先>
(株)現代教育新聞社
電話03-5645-5311 <http://www.gks.co.jp/event/kumamoto/>

短 信

■平成14年春の叙勲・褒章受章者が発表された。視聴覚教育関係者では次の方が受章した。

伊平保夫氏(元全国高等学校視聴覚教育研究協議会会長、元財団法人日本視聴覚教育協会理事) 勲四等瑞宝章

川鍋宏司氏(元日本学校視聴覚教育連盟会長) 勲五等双光旭日章

■報映産業(株)は下記住所に移転した。

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-2-8 長瀬産業本町ビル 電話03-3274-7885